

資料 1

消防団員に対するアンケート結果

杉並区内消防団（杉並消防団 340 名、荻窪消防団 265 名、合計 605 名）

今回の実施対象者は階級別、年代別、男女別、勤続年数別に全体の約 3 割、177 名にアンケートを実施しました。

回答数は 133 名で、回答率は 75.1% でした。

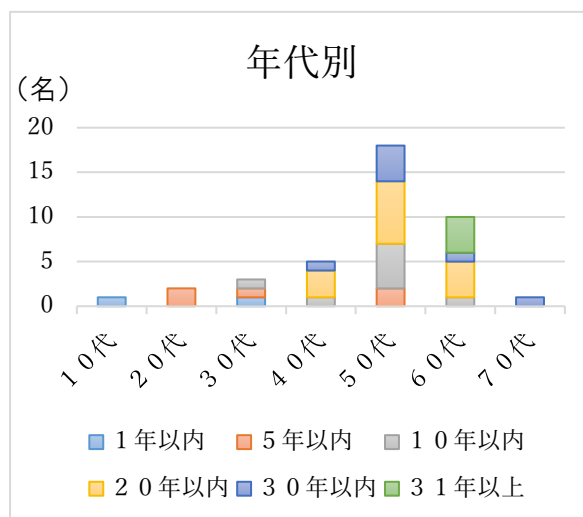
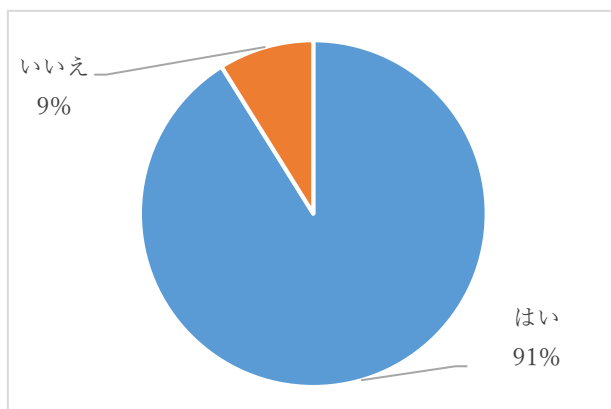
(対象者内訳)

階級別	合計 (名)	割合	年代別	合計 (名)	割合
団長	1	1%	10代	2	2%
副団長	1	1%	20代	16	12%
分団長	13	10%	30代	13	10%
副分団長	24	18%	40代	30	23%
部長	32	24%	50代	41	31%
班長	21	16%	60代	26	20%
団員	40	30%	70代	4	3%
未記載	1		未記載	1	
	133			133	
男女別	合計 (名)	割合	勤続年数	合計 (名)	割合
男性	96	72%	1年以内	10	8%
女性	37	28%	5年以内	24	19%
	133		10年以内	24	19%
			20年以内	40	31%
			30年以内	17	13%
			31年以上	13	10%
			未記載	5	
				133	

1 組織の活性化方策について

【設問1】

消防団活動にやりがいを感じているか



【設問2】

設問1で（はい）と答えた方のみ回答してください。

どんな時にやりがいを感じているか記入してください。

仲間と共に活動しているとき
誰かの役に立ったとき
操法大会で結果を残せたとき
自分の役割が地域に貢献していると実感できるとき
訓練に参加し、現場で活動できる技術や知識を身に付けたとき
防災訓練等で感謝されたとき
中学校などで救命講習を行い感謝されたとき
自分が生まれ育った地域を守っていると実感できたとき
防災訓練等で真剣に取り組む参加者を見たとき
地域の方から感謝の言葉をかけてもらったとき
学んだことが実生活で活かせたとき
団員が増えたとき
家族、町の安全安心を守る責任感を感じる時
必要とされているとき
消防団活動のすべて
地域の子供たちが消防活動に触れて笑顔を見せた時

など

【設問3】

設問1で（2 いいえ）と答えた方は、理由を記入してください。

まったくやりがいを感じないわけではないが、操法大会の訓練が中心になってしまうことがある
式典等の必要性がわからない
入団してすぐに得られると思った知識や訓練がそれほどなく、不満を感じた
生活の役に立つ経験になっていない。行事も実災害につながっていないような気がする
やりがいというより使命感
地方では消防団が活動しなければならないが、都内では消防隊だけで十分だと思う

など

【設問4】

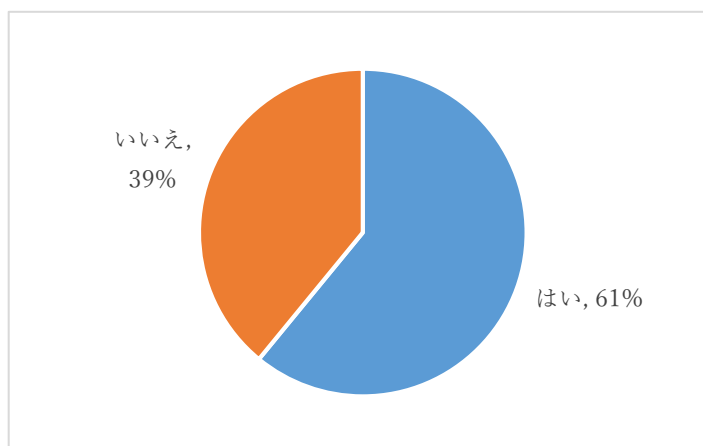
消防団活動でやりがいを感じられるようになるためには、どのようにすればよいと思うか、記入してください。

団員間のコミュニケーションを取り、活性化を図ることで仲間意識を高める
操法大会の選手をやるなど、活動訓練に積極的に参加し目標をもって取り組む
何かしら習得したいことなど意識を持って参加する
適切な役割、役職を与える
自分たちができることを明確にし、実動訓練をもっと増やしたほうがいい
しっかり出勤をして経験を積み自信を持つこと
操法訓練だけでなく署隊との連携訓練や資機材の取り扱い訓練など火災現場での行動や、報告の仕方などの訓練を実施する
自分にできることを活かした活動ができると良い。勉強を重ねてレベルアップしたい
研修回数を増やしてほしい
何のためにやっているか理解する、すべての活動に意味があると思う
即戦力になる訓練、都や区の災害想定と計画の知識講習が欲しい。大会や式典は士気が下がり不満でしかない
沢山の人と交流できるようなイベントなどを定期的で開催する
様々な活動をしている事への認知をしてもらう、イメージチェンジ、積極的に活動を公開する
地域の方とのコミュニケーションが取れるような活動を増やす
消防団活動に協力してくれる地域や新人を増やす努力をする
消防団での活動役割をもっと対外的にアピール、消防団の存在をわかりやすくする
やりがいはひとそれぞれ
活動場所の確保

など

【設問 5】

消防団活動において、必要と思われる資格又は取得したい資格はあるか



【設問 6】

設問 5 で（1 はい）と答えた方は、必要と思われる資格又は取得したい資格について理由も含めて記入してください。

応急救護関係（普及員、指導員、上級救命講習、AED）、救急救命士、知識も含めて勉強になる
ドローン資格、災害現場でこれからは必要
防災士、防災診断士
無線資格
災害時に役立つパソコン情報関係、AI関係
危険物取扱者、災害時に使えるから
大型自動車、特殊自動車免許、小型移動式クレーン、フォークリフト建設系機械
搬送車の緊急走行資格
警防、機械の研修を増やしてほしい
可搬消防ポンプ等整備
小型船舶操縦士
消防設備士
急流救助、ロープレスキュー
第1種、第2種電気工事士、電気に対しての知識を身に着けるため
防火管理者、職場や集合住宅で活用でき、「消防団になればこんな資格取れる」とアピールになる
どんな資格があるかわからない
チェーンソー関係取扱講習
外国語、英会話、手話

など

【設問7】

消防団員の現職業内容から、消防団活動に活かせると思う資格、技術及び知識があると思われる方は理由も含めて記入してください。

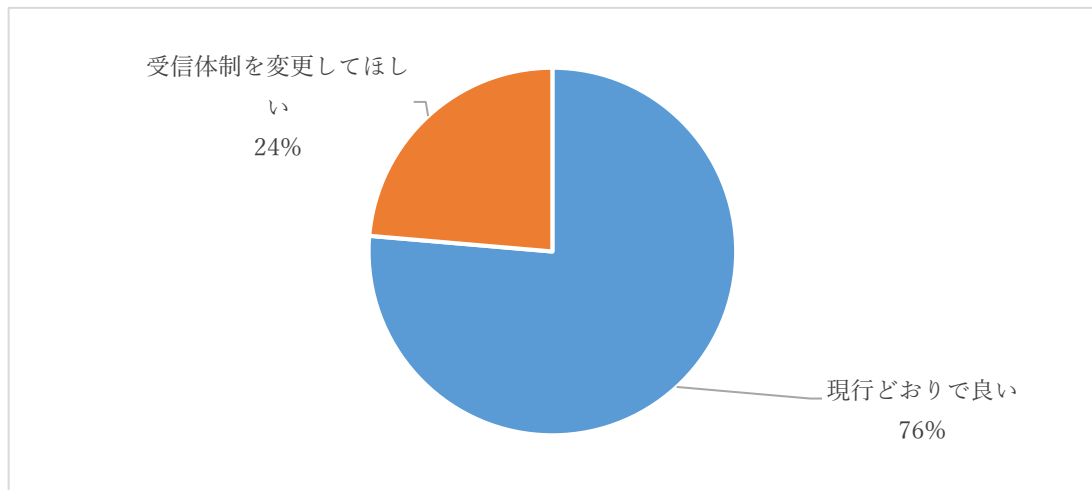
大型二種免許等の運転免許
整備士
大型二輪免許
船舶免許
高所作業車、バックホー等建設機械の取り扱い、倒壊家屋の除去、要救助者の救出には必須
無線関係
無人航空機操縦技能
上級救命講習等、救急関係資格
医療職（医師、看護師）災害時の救護活動
介護資格
広報活動
英会話
手話
建築関係
建築機械、重量物の運搬
防火防災管理責任者
心理関係
オンライン会議、ネット配信
防災士
情報や ICT の知識
人材のコーディネートと育成
個人情報保護
文書作成

など

2 活動環境の改善方策について

【設問1】

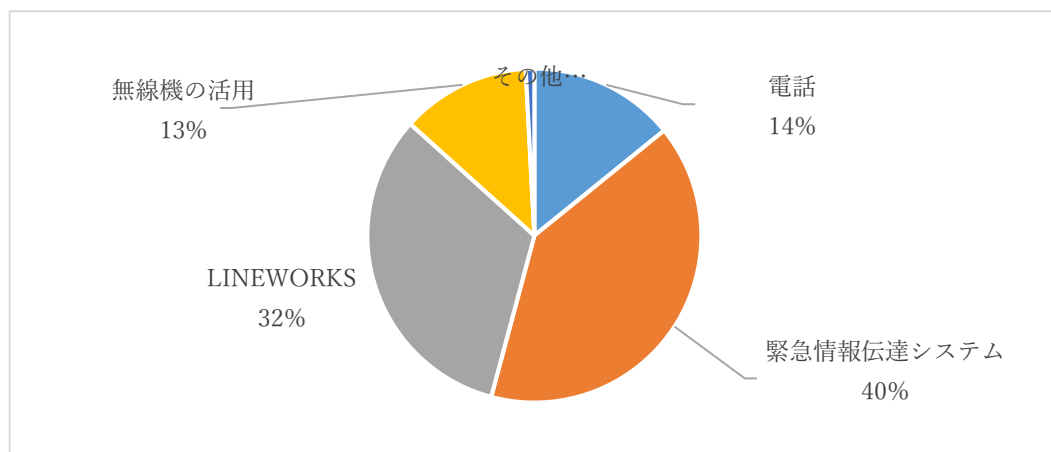
現行の災害受信体制についてどのように感じるか、



【設問2】

災害受信方法について、最も効率がよいと思われる受信方法はなんですか

(5 その他)については、具体的に記入してください

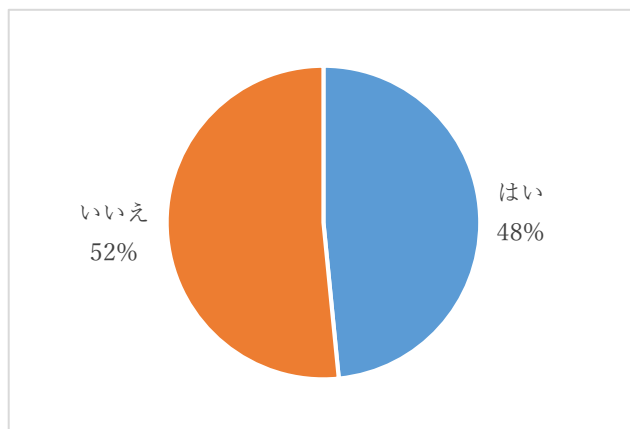


5 その他の内訳

特化したアプリ

【設問3】

今までタブレット端末を使用したことはありますか

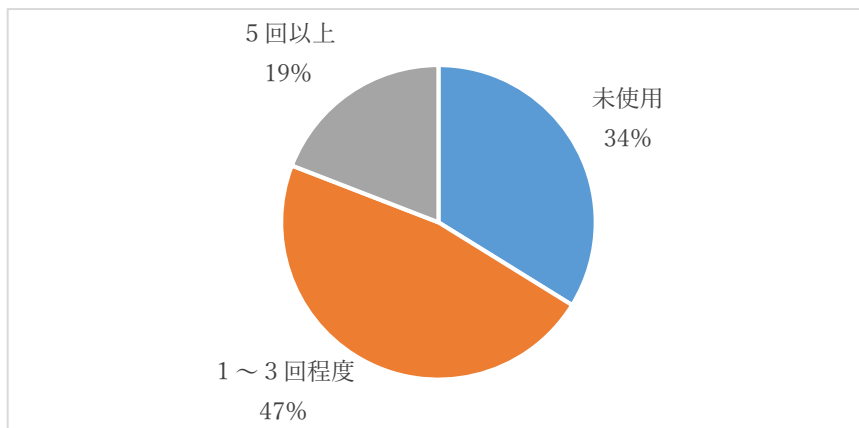


【設問4】

設問3で（1 はい）と答えた方にお聞きします。

1か月の使用頻度についてお答えください。

1 未使用 2 1～3回程度 3 5回以上



【設問5】

もっとタブレットを活用するためには全体的にどんな活用方法があると思いますか

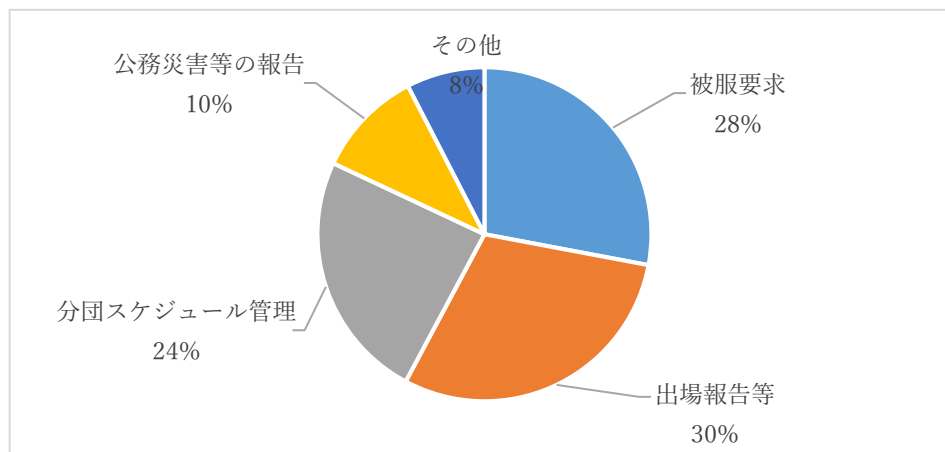
定期的に講習会を設け、多くの団員が使えるようにする
まずは、多くの団員がタブレットに慣れる
使い方ガイドを作ってほしい
携帯が精いっぱいだとタブレットは苦手
世代間で幅広く知識を交換しあう機会を設ける
本部と各分団の訓練回数を増やす
操法大会における統一事項や各分団からの質問やその解答に利用
災害現場に持っていく
タブレットを使って署との訓練
分団内の研修の充実
操法大会に向けた訓練中の動画撮影、視聴、署からの指導を録画し、皆で共有する
出火報と同時に地図を表示させる
分団や本団会議を ZOOM で行う
タブレットとモニターのリンク
ユーザーインターフェースに優れたアプリケーションをタブレット内に導入すること
被服管理
翻訳機能を活用する
操法練習
団本部に置いてあるので、あまり活用できない
積載車に常に載せておかないと実際に使用できず、充電がすぐ切れる。団本部に置いていても緊急時に使用できないためあまり意味がない
ドローンの運用
団員の個人携帯に情報が周知できるようにしないと画像も送れないのでは使えない
出欠確認
台数増強、平時より使用、スマホと連携
重い、大きい。スマホで十分
スマホがあるので必要性を感じない
タブレット活用の必要性が分からない
活用する方法より、そもそも必要かどうかを考える必要がある

など

【設問6】

どんな機能やアプリがあれば便利だと思いますか

(5 その他)については、具体的に記入してください



5 その他の内訳

・通信機能のあるアプリ
・FireChief アプリ
・LINE に準じたアプリ

【設問7】

現在配置されている資機材で仕様変更等により、利便性が向上したり、負担が軽減できると思われるものはありますか、資機材名と理由を記入してください。

チェーンソー、女性では扱いづらいので、軽量化及びコンパクト化
バッテリー予備
充電式バッテリー
水槽（重い、排水に時間がかかる、古すぎる）もっと簡単に設置したり、撤去できる水槽
バルーンライト（明るいので訓練中に団員の動きがよく見えて勉強になる）
投光器（LEDに変更）、また1台の発電機で複数台使用できるようにしてほしい
投光器等の照明機器（充電機能付き）
B級ポンプの接地面の形状を統一してほしい
活動靴を軽くして、防水にしてほしい
エンジン音が静かな発電機
資器材の電子化
ホース巻機
ガンタイプノズル
ハロゲンの照明器具 長時間使用後、熱を帯びてしまい火傷をする可能性があるため LEDに変更

充電式の発電機、ガソリンは危険。資機材の管理は業者に点検を依頼
椅子型のストレッチャーやリアカー等も必要。後部座席に収まればよい。
携帯型油圧救助器具
燃料メーター付き発電機

【設問8】

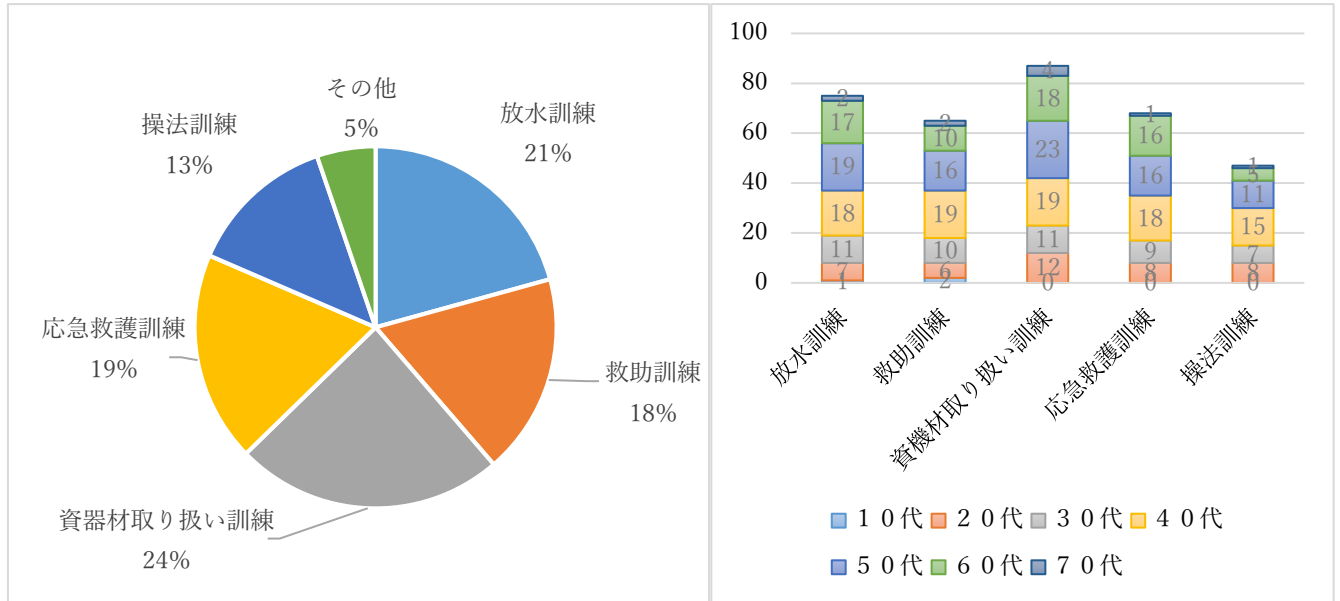
装備資機材について、現在配置されている資機材以外に必要なと思われる資機材があれば、資機材名と活用方法を記入してください。

MC A無線、デジタル小型無線機
折りたたみ式アルミ製リヤカー 資器材搬送用
トリガータイプの放水筒：少人数での運用ができるから
活動服の下に着るアンダーシャツ、もしくはスポーツシャツ

3 人材育成方策について

【設問1】どのような訓練が必要だと思いますか

(6 その他)については、具体的に記入してください



5 その他の内訳

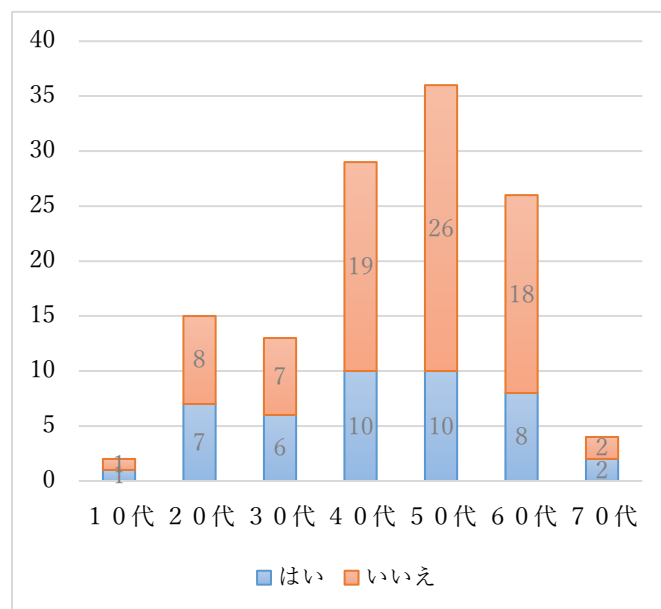
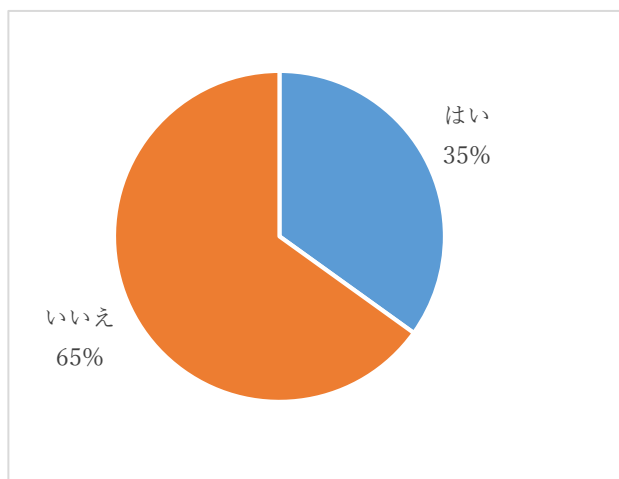
残火処理要領
火災予防の訓練
リアリティのある訓練
有圧水利取り扱い訓練、スタンパイプ指導等あるため
搬送車の運転
分団毎の参集訓練
整列隊形
無線運用訓練
大会や式典よりも、すべての訓練が出来る合宿のようなものがあればよい
消防署の訓練に参加、見学

参考

※令和5年中に行われた研修・講習・講座・教養・訓練については別添参照

【設問 2】

団員の実績や技術、能力を基に階級とは別の識別を行う必要があると思われますか
 例) 上級救命講習修了者専用バッジを着けるなど



【設問 3】

設問 2 で（1 はい）と回答した方にお聞きします。

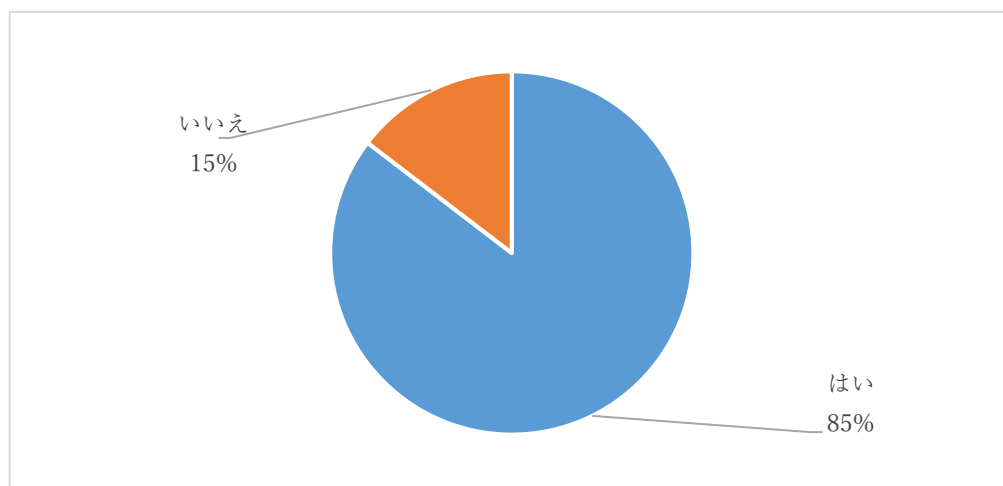
識別が必要であると思われるものとその理由を記入してください。

モチベーションの向上と、責任感の醸成、参加意欲ややりがいの向上につながる
機関員、救命資格者等、災害時の役割分担に役立つ
技術を持っていることが分かれば緊急時や訓練時に識別でき、質問しやすい。
全てのもの、差別化してあれば質問しやすい、偏った意見や偏見を防ぐため
自覚を深める、他人からも資格（技術・能力）がわかりやすい
バッジとかいっぱいあると付け外しが面倒。現在の普及員バッジも疑問
在団期間のわかるバッジ、技術資格取得者がわかるバッジ
調べなくても即座に資格を確認できるから
講習会などで指導者と分ける為
可搬ポンプの操作、筒先が保持できる団員（消火班に必要なため）
見て分かるほうが早いから
機関員の修了証は免許と一緒に持てようにカード形状がいい
モチベーションが上がるし、実働の際にその人を中心とした組織だった行動ができるから
どんな識別にせよ、他分団の団員でも識別できるため

など

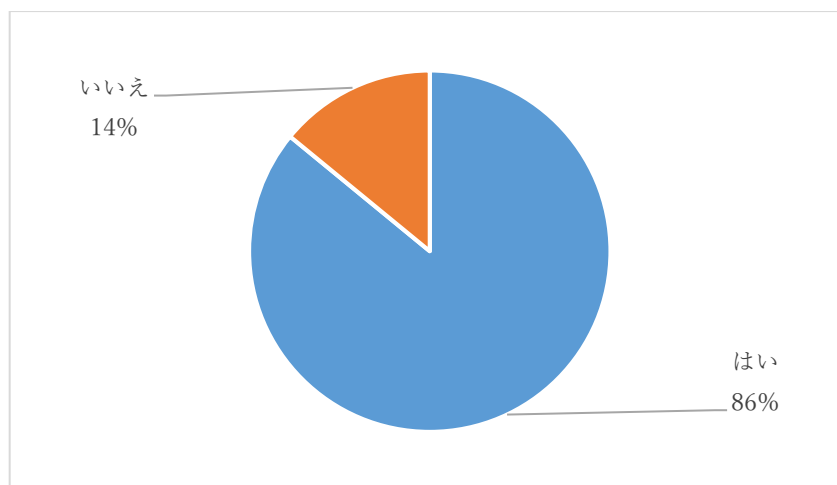
【設問 4】

消防団活動の経験が豊富な団員が訓練指導者となり、経験が浅い団員への知識、技術を伝えるための講習や訓練指導は必要だと思いますか



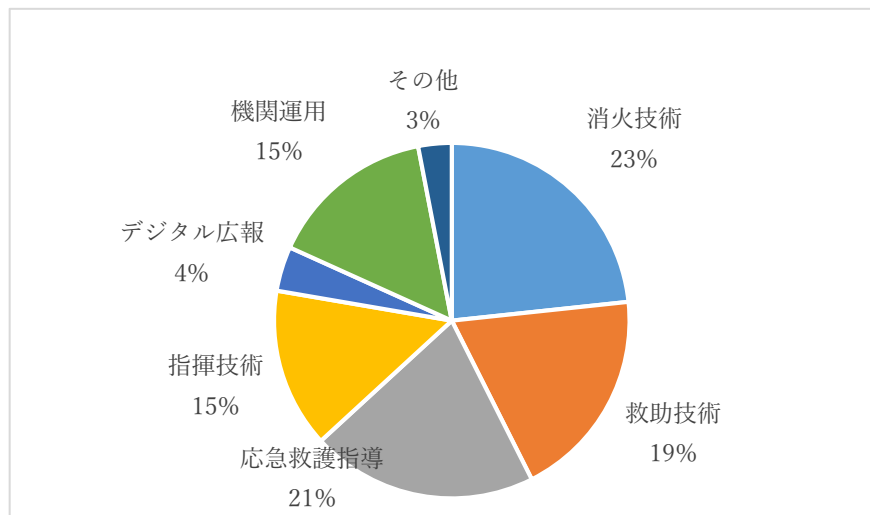
【設問 5】

設問 4 の訓練指導者となるための研修は行う必要はあると思われますか



【設問6】

訓練指導者となるために必要だと思われる研修項目について
(7 その他)については、具体的に記入してください。

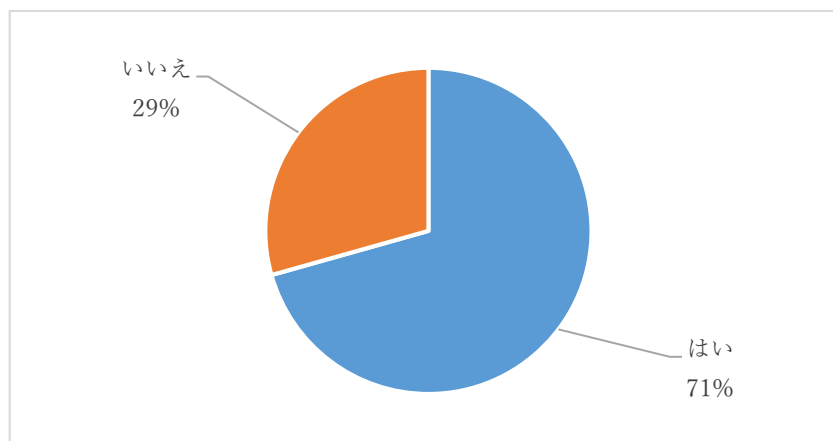


7 その他の内訳

リーダーシップ、コミュニケーション能力
操法大会の指導要領
車両運行技術
一人がなんでも指導する必要はない。特化していればよい
機材のメンテナンスの知識
安全管理
ハラスメント研修

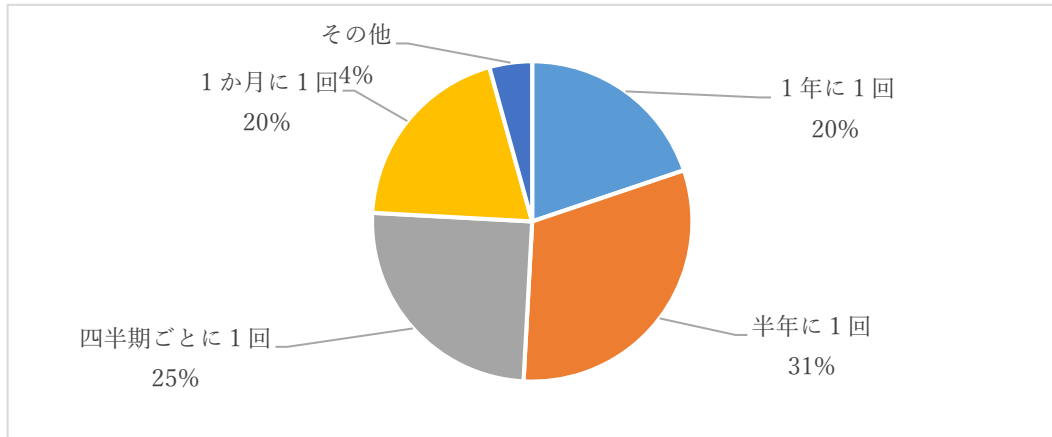
【設問7】

操法大会とは別の実動訓練は必要だと思いますか



【設問 8】

実動訓練を行う場合の訓練頻度についてはどれくらいがよいと思いますか
(5 その他)については、具体的に記入してください

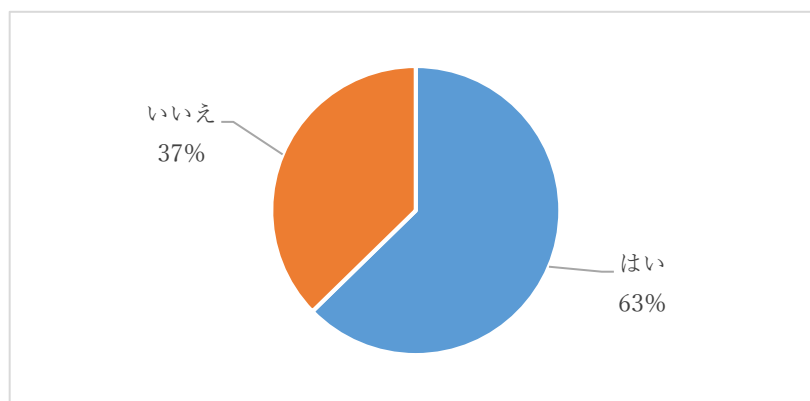


その他の内訳

1週間に1回
必要ない
操法大会でもうんざりするので式典が伴うものは必要ない
各一人一人に効果確認を実施すると良い
開催は毎年で、団員は5～7年に一度くらい評価されるのが良い

【設問 9】

実動訓練について効果確認を行う必要があると思いますか



※効果確認とは

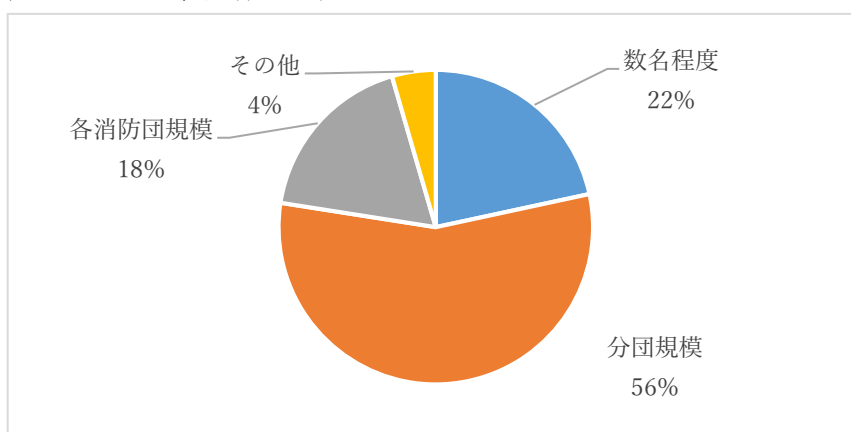
効果確認は、管轄区域内の消防団員の知識及び技術の習得状況を把握するため、次により行う。

- 1 効果確認は、筆記、実技、観察、面接、質問、審査、評定その他消防団員の技量に応じた適宜な方法により行う。
- 2 効果確認の時期は、審査会、各種訓練等の機会を活用して行う。
- 3 階級、年齢、経験、任務等に区分し行う。

【設問 10】

効果確認を行う規模はどれくらいがよいと思いますか

(4 その他)については、具体的に記入してください



その他の内訳

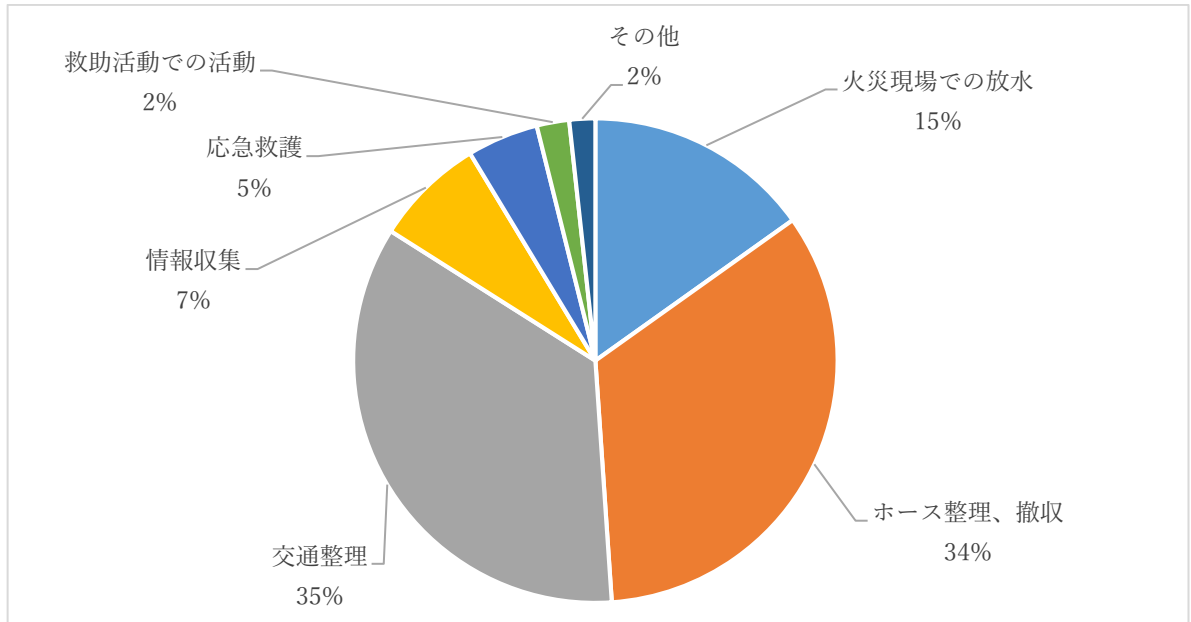
1週間に1回
必用の都度

4 消防団を地域住民により認知してもらう方策について

【設問1】

災害活動等で従事したことのある項目について回答してください（複数回答可）

放水については概ねの回数を、（7 その他）については、具体的に記入してください。

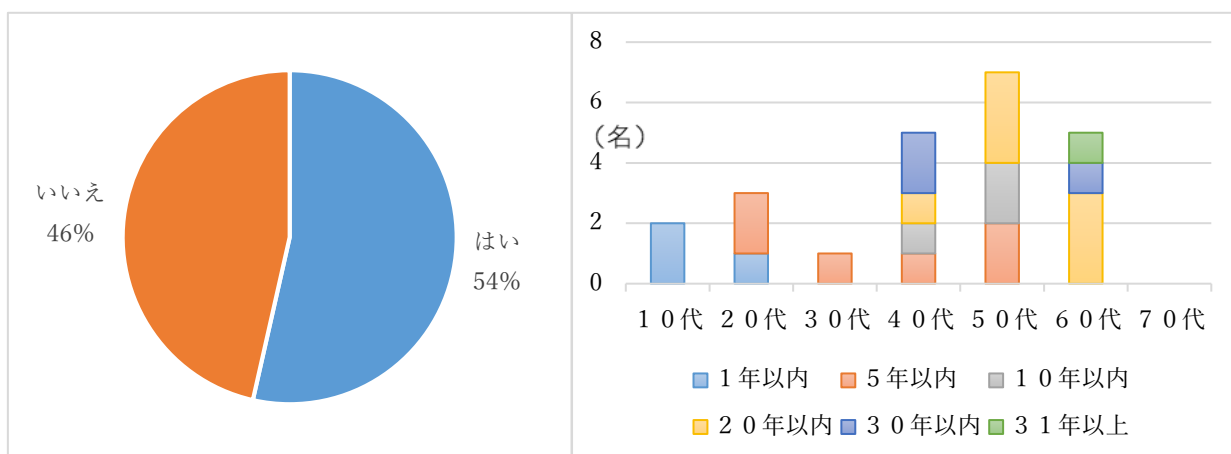


その他の内訳

残火処理
防災訓練指導
なし

【設問 2】

災害現場で活動できる自信はありますか



【設問 3】

設問2で（ いいえ ）と回答した方にお聞きします。

なにがあれば自信が持てると思いますか

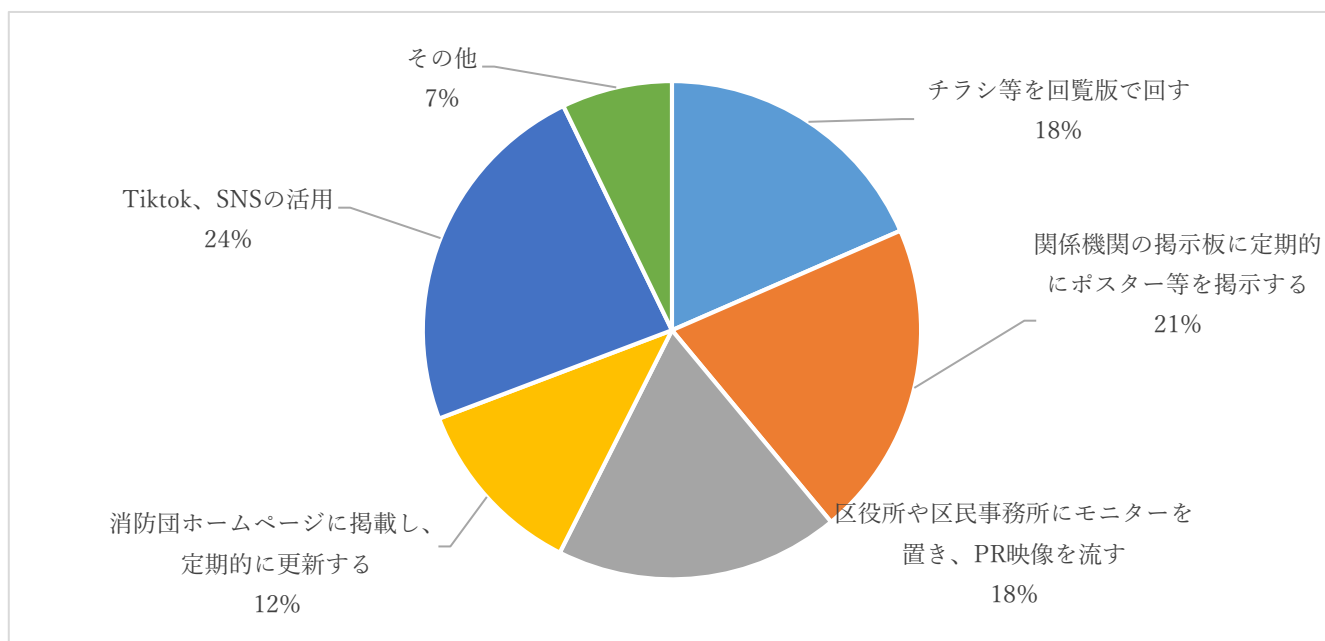
具体的に記入してください

色々なことを想定した実動訓練
災害現場での対応がわからないのでいろいろなシミュレーションを実施してほしい
火災現場を想定して消火訓練、実際に火を消す
消火活動について基本的なことを教えてもらう
消防団の現場での役割を理解すること
もっと頻繁な災害現場への出場
知識と経験
救助訓練場少ないので実際の大規模災害で消防署隊がいない状況で資器材を取り扱える自信がない
消防署での研修に参加したが、1回では自信がつかない、分団内での研修を
若さと意欲
屈強な体、体力面で不安
判断力
指揮力
具体的指示
救急関係技術
一人で活動ができる研修があると良い
経験や訓練を積んでも災害現場での自信が持てるとは思えない

など

【設問4】

消防団の活動状況を、より地域住民に認知してもらうための方策について回答してください。
 (6 その他)については、具体的に記入してください

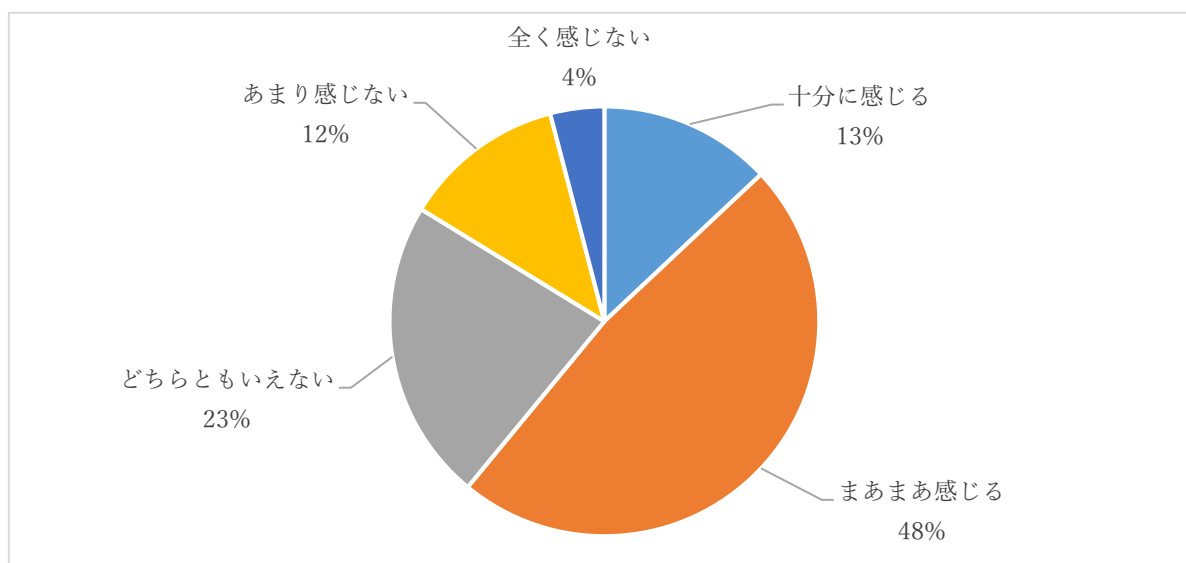


その他の内訳

電車内や人の多いところにポスターを張る
広報誌の配布ではなく、QRコード入りポスター
休日に大きな公園でデモンストレーション
ネット上のSEO活用、消防団に入りそうな人をデータ化、キーワードを使って記事を書く
ネットや無料動画での具体的な活動内容の配信
活動内容を話せる機会を設ける、チラシ、フライヤー、経験者による口コミ
住民行事に参加する
保育園や幼稚園、小学校など子供たちの親にPRする
小学校での消防写生会の日、保護者向けのチラシを配る(小学生保護者にターゲットをしぼるなど、ピンポイントに広報する。消防署や他施設で行っている救命講習で消防団のチラシを配る(お祭りなどより、興味のある人が多い)
地域住民との協同の訓練や、交流をもつこと
火災現場、救命講習活動等の動画をSNS等で流す
区報に掲載
直接チラシを配ったほうが効果的
消防団操法大会を地域住民に見学してもらう

【設問 5】

地域行事や消防団行事を通じて、地域住民と密接した関係を築けていると感じていますか



【設問 6】

設問 5 について、なぜそう感じるのか記入してください。

地域の行事などに参加して関係を築けている
地域行事に合わせた活動が多いから
日頃から関わりを持っているから
消防団を知ってくれる人が増えているから
今まで近隣の方と話す機会がなかったが、消防団に入ることにより話す機会が増えた
多く出場していて誰もが自分が消防団員であること知っており、頼りにされ質問される
町内会等による防火防災訓練やお祭り等のイベントへの参加
子どもや親世代には喜ばれる。町内会の方とも気軽に話せる
町会・自治会と協力して消火訓練を行っている
防災イベントなどたくさんの方が来場してくれるから
消防団の行事に参加したときにポンプ車との写真撮影などを通じて触れ合えたりするから
広報に力を入れている
地域住民に感謝されたから
色々相談される
町内会活動やイベントと連携することが多い
商店街のイベントで消防署に届出を出すように頼まれたり、近隣で多数の消防車のサイレンが聞こえた時、何があったのか質問されたとき
地域の方に声をかけてもらえるようになった
知り合いが増えた

消防団の存在を知らない消防団の活動を知らない方が多い
訓練でクレームをいただく
地域住民の興味がまだまだ少ない
日頃の消防団のPRが足りていない、消防団＝消防操法のイメージ
地域住民と消防団の接点が少ない
あまり知られていない。消防団の活動自体を認知してもらえないと感じない
住民の興味を感じない、消防団のイメージが悪く、古く感じる
閉鎖的に感じる
消防職員と消防団が別物であると知っている地域の方が少ないのでまずは消防団とは何かということを知ってもらいたい
理解してもらえない方もいる。保険と同じで、必要に迫られないと、大切さがわからない人もいる
町会の方には認知されていると思うがもっと認知してほしい

など

【設問 7】

今後、消防団活動を地域住民に理解して頂き、協力をしていただくために必要だと思うことを具体的に記入してください。

日頃の活動を SNS で公開することが大事
町会の祭やイベント等に積極的に参加し SNS 等を使って広報活動をおこなう
消防団の活動を見てもらい、SNS などでも発信して理解していただき、積極的に協力してもらう
地域イベントで防災や救命のブースを設けて体験会を行う
地域の夏祭りやイベントに消防団も参加して、認知度を増やしコミュニケーションを取る
回覧板やチラシで消防団活動を知ってもらう
地域行事や防災訓練等での、住民の方々との普段からの交流
訓練の見える化、発信を増やす
地域区民センター、区役所などに常時活動がわかるような消防団員募集中のポスターを置いたり、ビデオを流してもらう
若年層にもっと興味をもたせる
顔の見える関係性の構築
学校教育段階で子供たちに伝える
消防団のネーミングが消防署員との違いを一般人に伝わらない「市民防火ボランティア」のような一般人でも参加できる活動であることをアピールする
地域住民参加型のワークショップを開催する

など